令和8年度

全国学力・学習状況調査における山口市の結果概要について

山口市教育委員会

1 調査の概要

(1)目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図る。

・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)調査期日　令和8年４月23日(木)

英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」…令和8年4月20日(月)～23日(木)のうち1日

英語「話すこと」…令和8年4月24日(金)～5月29日(金)のうち1日

(3)調査対象　小学校第6学年児童

中学校第3学年生徒

(4)調査の内容

Ⅰ 教科に関する調査(小学校:国語、算数　中学校:国語、数学、英語)

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 中学校英語調査及び児童生徒質問調査について、児童生徒が活用するICT端末を用いたオンライン形式により実施

Ⅱ 質問調査

ア 児童生徒に対する調査

(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)

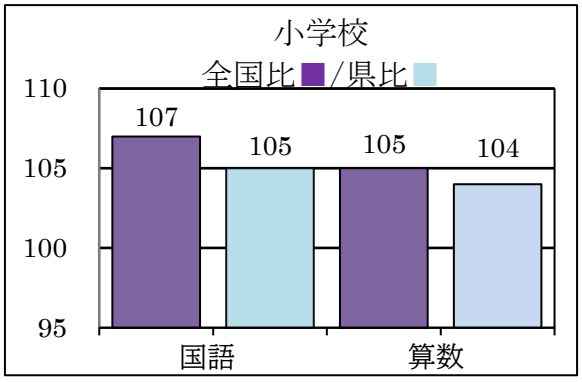
イ 学校に対する調査

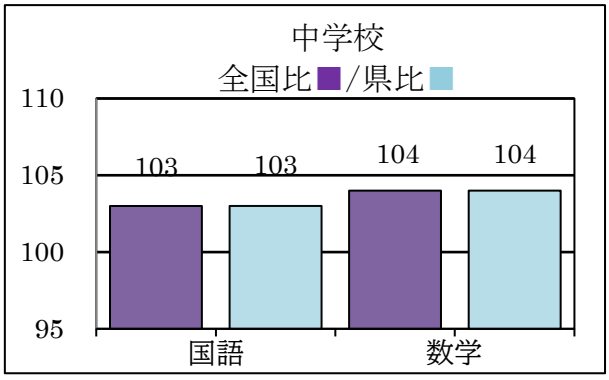
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

2　教科に関する結果

(1)山口市と全国・県の各教科平均正答率の比較

全国・県の平均正答率を100として、各教科における本市の結果(指標)をグラフで表しています。





＊小数点以下は非表示

＊中学校英語については、他教科と異なり、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点「IRTスコア」で表されております。本市の平均IRTスコアは501(全国の平均IRTスコアは499)となっております。なお、8月3日時点で公表されているスコアは、中学校英語4技能のうち、3技能(読むこと、書くこと、聞くこと)のスコアとなります。

(2)山口市の現状と今後に向けた方向性

本市の小学校・中学校ともに、全ての教科において全国・県平均正答率を上回る結果となりました。

また、学習指導要領に示されている各教科の内容についても、ほぼ全ての項目において全国・県平均正答率を上回りました。

一方で、各教科において全国・県平均正答率を下回る課題のある問題も見られました。

そこで、本市教育委員会といたしましては、各学校で見られた課題に取り組むための支援をするとともに、小中一貫教育の中で、各中学校区が一体となった授業改善に向けた研修機会の提供を行ってまいります。

(3)各教科の調査問題における傾向と学びのポイント

次ページより、以下に掲げる表記を用いて、各教科の調査問題における傾向と学びのポイントについて詳しく説明しています。

各教科の調査問題※ における解答の結果について、本市における傾向をまとめています。

◎…正答率が高かった問題や、経年比較による課題の解決が見られる問題
▼…本市の正答率が50％以下、または全国平均正答率を下回る等、課題の見られる問題
※各教科の傾向の後にある(1の一)などは、問題番号です。

また、解答結果から見られる学びのポイントについて、次の2点でまとめています。

… 解答結果の考察　　… 学びのポイント

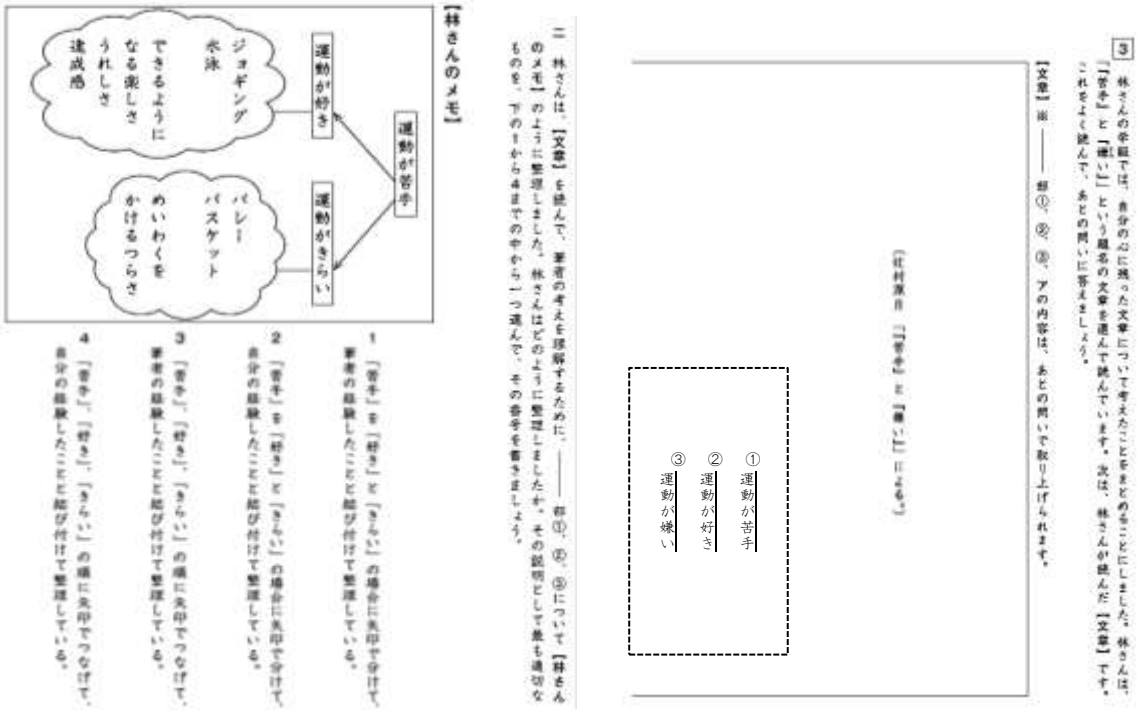
※調査問題の詳細や全国の調査結果、授業アイデア集などは、国立教育政策研究所の「教育課程研究センター全国学力・学習状況調査」内、「令和8年度調査」の以下のリンクから閲覧することができます。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html)

【小学校　国語】　　◎…成果　▼…課題

◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。（1の二（1））
◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。（2の四）
▼筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えるとともに、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。（2の一）
▼情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。（3の二）

＜解答結果から見られる学びのポイント＞

－ 国語3のニ　傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する－



正　答

1 「苦手」を「好き」と「きらい」の場合に矢印で分けて、筆者の経験したことと結び付けて整理している。

筆者の文章をもとに、林さんがどのように情報を整理してメモにまとめたのかを十分に捉えることができた児童は半数程度でした。このことから、文章中に示されている情報相互の関係性や、図などに示された語句のつながりを整理しながら読み取ることに課題が見られます。

情報と情報との関連付けの方法や、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、活用する力を育成する必要があります。そのため、文章中の情報を単独で捉えるだけでなく、情報を関連付けながら整理する学習を充実させることが重要です。具体的には、文章構造を図や表に表したり、キーワードを線で結び付けたりする活動を取り入れ、内容の関係性を視覚的に捉えられるようにします。また、「なぜそう考えたのか」「どの言葉とどの言葉が結び付くのか」を根拠とともに説明する活動や、文章を要約して見出しを付ける活動を通して、情報を比較したり関連付けたりしながら読む力を育成していくことが大切です。

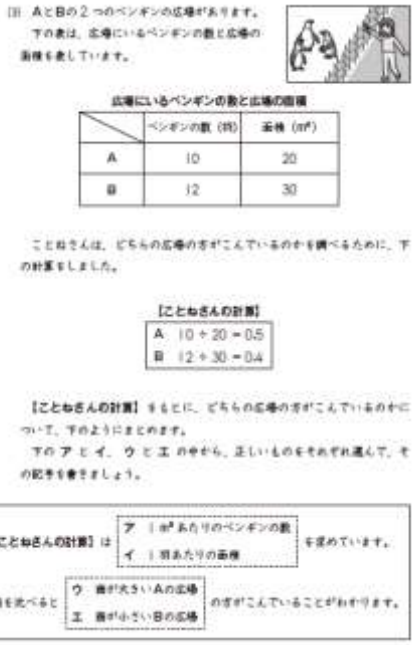
【小学校　算数】　　◎…成果　▼…課題

◎図形を構成する要素に着目し、直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述すること。(1の(4))
◎小数の減法について、十進位取り記数法の仕組みを理解し、整数と小数の減法の計算をすること。(3の(2))
▼単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるかについて判断できること。(2の(3))
▼異分母の分数の小さを判断し、その理由を数や言葉を用いて記述すること。(3の(3))

＜解答結果から見られる学びのポイント＞

－算数2の(3) ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ－

2


(3) AとBの2つのペンギンの広場があります。
下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。

広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数（羽）	面積（㎡）
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】
A　10 ÷ 20 = 0.5
B　12 ÷ 30 = 0.4

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようにまとめます。
下の ア と イ、ウ と エ のやから、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は［ア　1㎡あたりのペンギンの数／イ　1羽あたりの面積］を求めています。
商を比べると［ウ　商が大きいAの広場／エ　商が小さいBの広場］の方がこんでいることがわかります。

正　答

【ことねさんの計算】は
ア　1㎡あたりのペンギンの数
イ　1羽あたりの面積　を求めています。
商を比べると、
ウ　商が大きいＡの広場
エ　商が小さいＢの広場
の方が混んでいることがわかります。

概ね半数程度の児童が「イ」を選択しており、除法の式の意味の理解について、課題が見られました。
　また、「ア」を選択した児童の中で、「ウ」と「エ」を選択した児童の割合が同数程度であることから「単位量あたりの大きさ」の捉え方について、課題があると考えられます。

　本設問では、示された除法の式が(ペンギンの数)÷(面積)であることを読み取り、商が1㎡あたりのペンギンの数であることを捉え、その数が大きい方が混んでいると判断することが必要です。
　この設問は混み具合を問う内容ですが、異種の二つの量の関係どうしを比べる場面で、得られた単位量あたりの大きさからどちらが速いか、どちらが安いかなど、目的に応じて、大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすことにつなげることも大切です。
　実際の授業では、除法の式の意味をしっかりと理解した上で、具体的な事例を扱いながら、立式し、商が表すものをイメージしながら捉えるようにすることが有効です。

【中学校　国語】　　◎…成果　▼…課題

◎単語の活用について理解していること。(1の三)
◎文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができること。(4の一)
▼単語の類別について理解していること。(1の二)
▼段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができること。(3の三)

＜解答結果から見られる学びのポイント〉

－ 国語1の二 「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する －

1

【二人の会話】

西先生、「ら抜き言葉」とは何ですか。「投げれる」と言ったときに、「それは「ら抜き言葉」だね。」と言われました。

竹内さん

「ら抜き言葉」とは、「できる」という①可能の意味を含む「出られる」を、「出れる」のようにする言い方のことです。「投げれる」も②「投げられる」の「ら抜き言葉」に当たります。

西先生

二　竹内さんは、【二人の会話】の〰線部②「投げられる」について考えています。次の1から4までのうち、「投げられる」を説明したものとして最も適切なものを一つ選びなさい。

1　「投げられる」という動詞である。
2　「投げる」という動詞と「られる」という動詞でできている。
3　「投げる」という動詞と「られる」という助詞でできている。
4　「投げる」という動詞と「られる」という助動詞でできている。

正答

「4」
「投げられる」が、動詞「投げる」と助動詞「られる」からできていることを捉えることができている。

今年度、中学校の国語において唯一県平均や全国平均を下回った問題でした。「投げられる」という単語が動詞「投げる」と助動詞「られる」からできていることを答えるところ、「られる」を助詞として捉えている生徒が多く、単語の類別についての理解に課題が見られます。

単語がその性質から自立語と付属語とに大別されること、更に幾つかの品詞に分類されることについて理解するとともに、それぞれの品詞が文のどのような成分になるか理解することが大切です。そのために、品詞の種類を覚えるだけでなく、それぞれの役割や意味の違いを明確にしていくとともに、助詞と助動詞や形容詞と形容動詞など、響きの似た品詞については、子どもたちのつまずきが予想されるため、意識的に取り扱う必要があります。
助詞と助動詞においては、活用(形の変化)の有無やどの品詞に付属するのかを考えたり、文章の中での具体的な使い方を振り返ったりしてイメージをもつことも大切です。

【中学校　数学】　　◎…成果　▼…課題

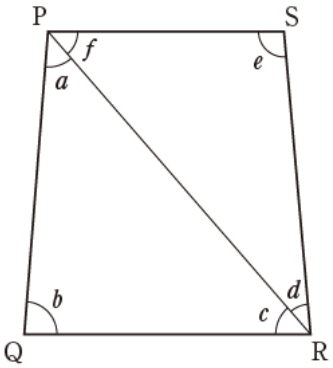
◎具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すこと。(1)
◎与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ること。(7の(1))
▼2 直線が平行になるための条件を理解すること。(3)
▼数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。(7の(2))

＜解答結果から見られる学びのポイント＞

－数学3　四角形 PQRS において、PS // QR を示すための根拠となる二つの角を書く－

3

下の図は、四角形ＰＱＲＳに対角線ＰＲをひいたものです。



正　答

角cと角f

上の図において、∠ａから∠ｆまでの６つの角のうち、ある２つの角の大きさが等しければ、ＰＳ // ＱＲであるといえます。その２つの角を書きなさい。

2つの直線に1つの直線が交わるとき、錯角が等しいならば、この2つの直線は平行になります。四角形 PQRS において、PS と QR の2つの直線に1つの直線 PR が交わっており、錯角を選択しなければならないことは把握できていました。しかし、実際にどの角が錯角にあたるのかを正しく特定することに課題が見られました。また、四角形PQRSを平行四辺形と誤って捉え、「平行四辺形の向かい合う角の大きさは等しい」という性質から角bと角 e を選択してしまう誤りが見られました。

2直線が平行になるための条件について理解を深め、活用できるようにすることが大切です。そのために、錯角や同位角、対頂角といった2つの角の位置関係を確実に理解することが重要です。また、2つの直線に1つの直線が交わる基本的な図だけでなく、四角形やその他の多角形などの図においても、錯角や同位角がどこにあたるかを正しく判断できるようにする必要があります。

【中学校　英語】　　◎…成果　▼…課題

◎言語の知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できること。(6)
◎自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。(8)
▼短い文章を読み、概要を捉えること。(9)
▼事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと。(12)

＜解答結果から見られる学びのポイント＞

－ 英語 12 中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く －

12



正答例

・My best memory is the school trip. I went to Kyoto in April. I saw a lot of temples and shrines there. They were very beautiful.
・My memory is the music festival. I enjoyed singing a song with my classmates. The practice was hard, but we enjoyed it.

事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができた生徒の割合は半数程度で、正答率は全国・県平均ともに下回っていました。文章構成の特徴を意識しながら全体として一貫性のある文章を組み立てることや、出来事や事実を描写した上で自らの考えや感想を適切に述べることについて課題が見られます。

「何を体験したか」を具体化してまとまりのある文章を書くためには、何をどの順番で伝えるかを組み立てる構成力や適切な語彙・文法、接続詞などを正しく活用する力が求められます。更に、事実と主観的な思考(感想)を1つのテーマの中で表現する力も必要です。授業では、モデル英文の構造分析や思考ツールの活用により「事実」と「感想」を整理・視覚化する活動や、お互いに成果物を確認し合って改善点に気づき、より分かりやすい文章へと訂正を繰り返す活動のような、インプットから思考の整理、発信、推敲までを一体的に行う言語活動が大切です。

3　生活習慣や学習環境等の結果

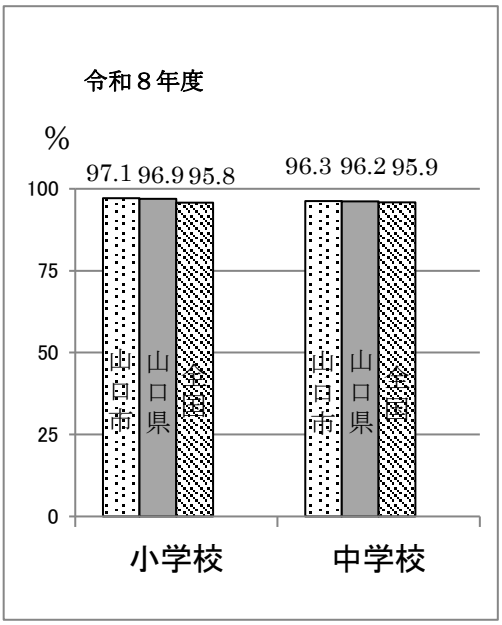
◎…望ましい状況　▼…課題の見られる状況

◎社会への参画について

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国・県平均を上回っています。

子どもたちが、学校生活や地域との関わりを通して、多様な人々と交流し、互いに支え合うことの大切さを実感することで、自らも社会の一員として、よりよい地域や社会の実現に貢献したいという意識を高めることにつながっていると考えられます。

教育委員会では、各学校において地域と連携・協働した特色ある教育活動をさらに推進することで、引き続き、子どもたちが多様な人々とのつながりを大切にしながら、地域や社会の担い手として主体的に行動しようとする意識の醸成を図ってまいります。

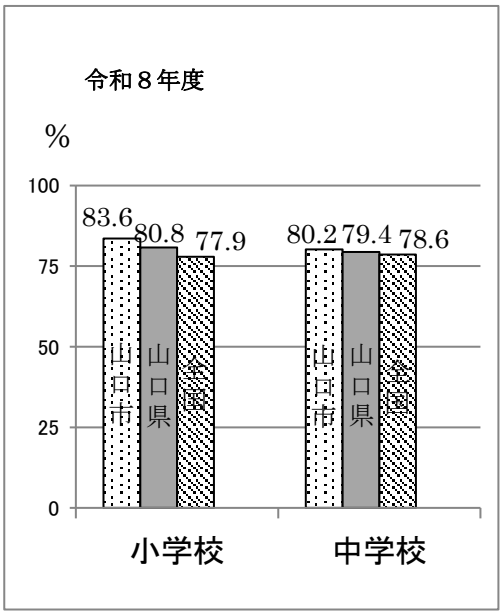


◎対話を通した学びについて

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国・県平均を上回っています。

子どもたちが、自分とは異なる意見について考えることを前向きに捉えていることは、授業や学校生活を通して、多様な考え方に触れ、互いの意見を尊重しながら学び合うことのよさを実感するとともに、自らの考えを深めることにつながっていると考えられます。

教育委員会では、各学校において、対話を重視した授業づくりや協働的な学びをさらに推進することで、引き続き、多様な考えを認め合い、他者と協働しながら課題解決に向けて取り組む力の育成を図ってまいります。

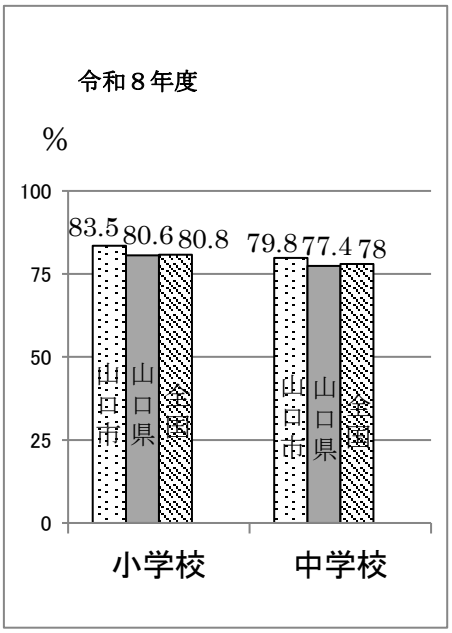


◎学ぶことの意味について

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童・生徒の割合は、昨年度に引き続き、小・中学校ともに全国・県平均を上回っています。

各学校において、自ら問いをもち、課題を追究する主体的な学びや、地域と連携した体験活動・探究的な学習を充実させることにより、児童・生徒が「学ぶことの意味」や「社会とのつながり」を実感し、学んだことを次の学習や実生活に生かそうとする意識が育っているものと捉えております。

教育委員会では、小中一貫教育の推進とともに、学んだことを次の学習や実生活に生かそうとする児童・生徒をさらに増やしていくことができるよう、授業において自分で考え、判断し、表現する自己決定の場や振り返りの場を一層充実させ、自己の変容や学ぶことのよさ・意義を実感できる授業づくりに向けた支援の充実を図ってまいります。

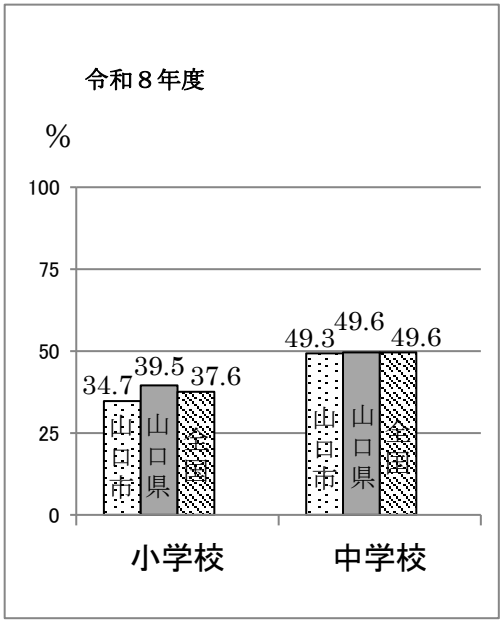


▼デジタル機器との適切な関わり方について

「普段、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でＳＮＳや動画視聴をしますか」との問いに対し、「３時間以上」と回答した児童生徒の割合は、全国・県平均よりは低いものの、長時間利用している児童生徒が一定数いる状況となっております。

スマートフォンやパソコン、ゲーム機等によるＳＮＳや動画視聴の時間が長い傾向にあることから、視力の低下など健康面への影響や、生活習慣とのバランスについて考えるとともに、デジタル機器との適切な関わり方を身に付けることが重要であると考えております。

教育委員会では、各学校において、情報モラル教育やデジタル・シティズンシップ教育を推進するとともに、家庭と連携しながら、子どもたちがデジタル機器を適切かつ効果的に活用し、健康や生活との調和を図りながら、情報社会で主体的に判断し行動する力の育成を図ってまいります。



4　各学校における特色ある取組事例

【地域連携】

○ A中学校では、地域の商店街での職場体験学習を通して、働くことの意義や地域を支える方々の思いに触れています。地域の方々から活動を認め、価値づけてもらうことで、生徒は自信を深め、将来や地域との関わりについて考える力を育んでいます。

B中学校区では、地元の特産品である「和牛」を生かした給食メニューづくりをテーマに、児童・生徒や地域の方々による熟議を行いました。「ビビンバ」や「瓦そば」など多様なアイデアを出し合い、地域の魅力を生かしたよりよいものを創り上げる活動を通して、地域への愛着や主体的に関わろうとする意識を育んでいます。

【校内研修の充実】

○ C小学校では、「特別支援教育」に関する研修を重点的に行い、児童一人ひとりの特性や教育的ニーズを理解した授業づくりを進めています。校内研修を充実させることで多様な学び方を大切にし、誰もが安心して学ぶことのできる学級づくりにつなげています。

D中学校では、「生成AI」の活用に向けた研修を行い、校務の効率化や授業改善に向けた活用方法について教職員間で理解を深めています。生成AIを効果的に活用しながら、教員の負担軽減と生徒の学びの充実につなげています。

【小中一貫教育】

○ E中学校区では、「問いを活かした授業づくり」をテーマに授業改善を進めています。小中合同研修会や研究授業を通して、子どもが自ら課題を見いだし、考えを深め、対話を通して学びを広げる授業の在り方を共有し、日々の実践に生かしています。また、子ども一人ひとりが主体的に学びに向かい、自らの考えを深めることができる授業づくりを目指して、教員同士が継続的に授業を見合い、協議を重ねています。

【やまぐち学習支援プログラムの活用】

○ これまでの「やまぐち学習支援プログラム」のプリントに加え、新たに、AIによるヒントや類題作成などにより、一人ひとりの学びを支えることのできる教材「やまプリ CBT」の運用が開始されています。各学校において、授業や家庭学習など様々な場面で活用が進められ、児童生徒一人ひとりに応じた学習支援の充実が図られています。



やまぐち学習支援プログラム（県作成）
「やまプリ CBT」

【幼保小連携】

○ 今年度、本市幼保小連携事業のモデルブロックである G･H小学校、I幼稚園では、これまでに作成した「架け橋期のカリキュラム」に基づいた実践を進めています。研修会や授業公開を通して、幼児期の学びを小学校教育へ円滑につなぐ取組を市内に発信するなど、幼保小連携の推進に向けた先導的な役割を果たしています。